

# 東京駅丸の内駅舎

平成24(2012)に改修されたスレート屋根  
使用されたスレートの使用割合等

宮城県登米市 登米町産:約30%	ドーム状屋根: 登米産スレート100%
宮城県石巻市 雄勝町産:1%未満 スペイン産:約70%	平屋根: 主にスペイン産スレート (石巻市北上町・熊谷産業による)



国立印刷局HP



登米スレート  
宮城県の石



新札見本:財務省提供

令和6年7月3日、20年ぶりに新札が発行され、新一万円札の裏に東京駅のドーム状の屋根がデザインされています。東京駅の屋根は、黒色で光沢のある粘板岩(スレート)で葺かれています。このスレートは宮城県登米市登米町で産出したもので、薄く割れる特性があり、ウロコ状に加工されています。ただ、残念なことに、登米町のスレートの埋蔵量はまだまだ多量に残されているものの、既に閉山となっています。また、平成28年(2016)5月10日、日本地質学会は「宮城県の石」に「スレート」を選定しました。